



Prism

生徒に寄り添う

学校が始まり、気がつけば明日から9月。8年生の学校生活も残り半分に入ろうとしています。生徒たちは日々さまざまなことに挑戦しています。

先週は、全県模試と国語探究の研究授業に取り組みました。模試当日の朝、教室に入るといつもとは違う心地よい緊張感が漂っていました。朝の会までの静まり返った室内で、一人ひとりが自分の苦手な部分を解き直したり、テキストを見返したりと、真剣に向き合う姿がとても印象的でした。ところが次の日には、朝から友達と笑顔でカードゲームやおしゃべりを楽しむ、いつもの賑やかな雰囲気に戻っていました。この見事な切り替えに、生徒たちのたくましさや確かな成長を感じます。

中学2年生(13～14歳)は、「子ども」から「大人」へと向かう心の過渡期です。少しずつ高校受験や将来の進路という現実的なプレッシャーを感じ始め、理想と現実のギャップに悩んだり、感情のコントロールが難しくなったりと、精神的に不安定になりやすい時期でもあります。時には強がりや反抗的な態度を見せることもありますが、その胸の奥には強い不安を抱えていることも少なくありません。

私たち教師も、まずは生徒の言葉を否定せず「そうなんだね」と最後まで受け止める姿勢を大切にしようとしています。適度な距離感を保ちつつ、「困ったときにはいつでも頼れる」という安心感を伝え続けていきたいと考えております。

ご家庭におかれましても、お子様との関わり方に迷われることがあるかもしれません。まずはあたたかく見守っていただき、ご家庭がホッと心を休められる場所であれば幸いです。

現在、生徒たちは落ち着いて学校生活を送れています。何かご心配なことや気になることがございましたら、どうぞお気軽にご連絡ください。



学級風景

。先週の水曜日、国語探究の授業にて研究授業を行いました。当日は東京と大阪より、次期学習指導要領の作成に携わる研究者お二方をお招きし、生徒たちの学びの様子をご覧いただきました。

今回の授業は、中学3年国語の領域「合意形成を目指して自分の考えを広げたり深めたりする」を目標に設定し、「SOLANの生成AI活用ルールを考えよう」というテーマで議論を深めました。事前に保護者の皆様にご協力いただいたアンケート結果やインターネットの調査データを根拠とし、生徒・教師・保護者・開発者というそれぞれの立場を意識しながら多角的に意見を出し合いました。

授業の運営は、司会・板書を担当したそうたさんとさやさんを中心に、すべて生徒たち自身の手で行われました。参観された先生方からは、次のような嬉しいお言葉をいただいています。

- ・データに基づいた根拠ある発言ができていた
- ・司会2名のコンビネーションと進行が見事だった
- ・全員の「納得解」を目指し、粘り強く話し合っていた
- ・何より、互いの意見を尊重する雰囲気が素晴らしかった

相手の意図を確認したり、複数の意見を関連づけて新たな提案を生み出したりと、全員が「この話し合いを成功させよう」と自分自身の言葉を尽くしていました。合意形成は大人にとっても容易ではない難題ですが、勝ち負けを決める議論に終始するのではなく、全員が納得できる解を模索し続けた姿勢に、生徒たちの確かな成長を感じた素晴らしい時間となりました。

事前アンケートを含め、ご協力いただいた保護者の皆様に心より感謝申し上げます。

